

7 月 31 日現在の果実の肥大は、全ての品種で平年並となっています。
極早生、早生温州は 8 月上旬頃、普通温州は 8 月中旬頃を目安に樹勢や肥大量、着果量に応じて仕上げ摘果を行いましょう！

1 令和 7 年 7 月の気象

令和 7 年 7 月の半旬別の気象を表 1 に示した。平均気温は全ての半旬で平年並み～高かった。月平均気温は 27.6℃で、平年より 2.4℃高く、前年より 0.3℃低く、前年並みであった。

降水量は、第 3 半旬で 42.0mm、第 4 半旬で 9.5mm の降雨があり、それ以外では降雨がほぼなかった。月合計の降水量は 52.0mm で、平年の 30%、前年の 51%であった。降雨が極端に少なかった一昨年（令和 5 年 7 月降水量 49.0mm）と同程度であった。

日照時間は、第 3 半旬で平年より少なく、それ以外は平年より多かった。月合計の日照時間は 264 時間で平年の 147%、前年の 105%であった。

表 1 令和 7 年 7 月の気象（アメダス館山より）

半旬	平均気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	27.3	23.8	27.1	0	37.1	7.0	30	23	44
2	28.7	24.4	28.3	0.5	39.0	0	47	26	51
3	25.7	25.0	26.1	42.0	33.8	77.5	14	28	21
4	27.4	25.4	27.0	9.5	25.8	18.0	41	30	30
5	28.3	25.9	29.2	0	20.9	0	62	32	58
6	28.0	26.4	29.6	0	19.2	0	70	42	49
平均／計	27.6	25.2	27.9	52.0	175.8	102.5	264	179	252

注 1) 平均／計：平均気温（℃）は平均値、降水量（mm）及び日照時間（hr）は合計値を示す

2) 表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある

2 果実及び樹の生育

7 月 31 日における調査園の果実生育状況を表 2 に示した。横径は「日南 1 号」が 4.5cm、「興津早生」、「大津 4 号」、「青島温州」が 3 地区の平均でそれぞれ 4.0cm、4.1cm、4.2cm であった。「日南 1 号」は平年比及び前年比 96%であった。「興津早生」は平年比 103%、前年比 100%であった。「大津 4 号」は平年比 108%、前年比 100%であった。「青島温州」は平年比 111%、前年比 105%であった。

縦径は「日南 1 号」が 3.5cm、「興津早生」、「大津 4 号」、「青島温州」が 3 地区の平均でそれぞれ 3.4cm、3.3cm、3.4cm であった。「日南 1 号」は平年比 90%、前年比 92%であった。「興津早生」は平年比 97%、前年比 97%であった。「大津 4 号」は平年比 103%、前年比 97%であった。「青島温州」は平年比 106%、前年比 100%であった。

果形指数は「日南 1 号」が 1.3、「興津早生」、「大津 4 号」、「青島温州」が 3 地区の平均ですべて 1.2 であった。「日南 1 号」は扁球傾向、それ以外の品種はやや扁球傾向であった。

表2 果実の生育（令和7年7月31日）

品 種	調査地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	暖地園研	4.5	4.7	4.7	3.5	3.9	3.8	1.3	1.2	1.2
興津早生	三芳地区	3.8	3.8	3.8	3.3	3.4	3.5	1.2	1.1	1.1
	千倉地区	4.0	3.9	4.0	3.4	3.5	3.5	1.2	1.1	1.1
	暖地園研	4.2	3.9	4.1	3.6	3.5	3.6	1.2	1.1	1.1
	平 均	4.0	3.9	4.0	3.4	3.5	3.5	1.2	1.1	1.1
大津4号	三芳地区	4.2	3.8	4.0	3.4	3.2	3.5	1.2	1.2	1.1
	千倉地区	4.1	3.8	4.1	3.3	3.2	3.3	1.2	1.2	1.2
	暖地園研	4.1	3.8	4.2	3.3	3.1	3.4	1.2	1.2	1.2
	平 均	4.1	3.8	4.1	3.3	3.2	3.4	1.2	1.2	1.2
青島温州	三芳地区	4.2	3.7	4.1	3.5	3.2	3.5	1.2	1.2	1.2
	千倉地区	4.2	3.8	4.0	3.4	3.3	3.3	1.2	1.2	1.2
	暖地園研	4.1	3.8	4.0	3.4	3.2	3.4	1.2	1.2	1.2
	平 均	4.2	3.8	4.0	3.4	3.2	3.4	1.2	1.2	1.2

各地点の各品種の値は40果の平均

果形指数は、横径／縦径

3 8～9月の栽培管理

(1) 摘果

極早生、早生温州は8月上旬、普通温州では8月中旬（粗摘果の1ヶ月後）に仕上げ摘果を行う。摘果程度は1果当り葉数で極早生温州は20～25枚、早生温州は25～30枚、普通温州は20～25枚とする。樹勢、着果量や目指すサイズに応じて調節する。

着果が少なく果実が大玉である場合は、仕上げ摘果は行わずに収穫1ヶ月ほど前の樹上選果のみとする。

着果量が中程度の場合は間引き摘果を行い、小果、大果、内成り、すそ成り、奇形果、傷果、日焼け果などを優先的に摘果する。

着果量が多く、粗摘果の際に枝別全摘果を行った樹では、着果させる枝についても小果、大果、内成り、すそ成り、奇形果などを軽く摘果する。

(2) マルチ資材の被覆

高品質果実の生産にマルチ栽培は有効である。被覆は、夏の乾燥期が終わり秋雨期に入る前の8月下旬、遅くとも9月上旬に開始する。品種や土壌の乾きやすさ、灌水設備の有無によって、開始時期や被覆面積を調節する。マルチの適地は、ゆるやかな傾斜地で日当たりや水はけが良く、風の影響が少なく、普段から高品質の果実が生産できる園地である。

(3) 主な病害虫の防除

1) かいよう病

本病は2次伝染を繰り返すので、薬剤で春梢に対する初期防除を徹底する。果実に対しては梅雨から果実肥大期を重点的に防除し、その後は夏秋梢に対するミカンハモグリガの防除を行う。また、特に感受性の高い品種を栽培する場合には、園地の防風対策を行う。予防剤である銅水和剤はマシン油乳剤やデランフロアブルとの近接散布による薬害が起こりやすいので、2週間は散布時期をずらす。

2) 黒点病

枯枝が最も重要な伝染源となるため、生育期を通じ、枯枝の除去を徹底する。また、密植園の伐採、老木の更新など、各種要因により枯枝ができないような栽培管理が必要である。薬剤散布は、梅雨前の5月中下旬から開始し、累積降雨量が250mm前後に達した時点または前回散布から1ヶ月後に散布を行う。防除は9月上中旬まで継続して行う。

3) ミカンサビダニ

6月頃から9月まで果実を加害する。被害が急拡大する恐れがあるため、果実1～2個の被害を見たら直ちに防除する。特に梅雨明け直後に行う防除が重要である。樹冠の内部・上部など薬剤のかかりにくい部分に発生が多いため、摘果時に注意深く見る。黒点病の防除に用いられるマンゼブ剤により同時防除が可能だが、多発した場合は登録のある殺ダニ剤の使用が有効である。

4) ミカンハダニ

果実や葉を加害する。増加期の6月にはマシン油乳剤(97%)を散布する。散布の判断は、寄生葉率30%を目安にする。また、9～10月に多発するので、秋期には寄生葉率20%を目安に殺ダニ剤を散布する。

5) ミカンハモグリガ

通常の結果樹では本虫の被害を受けやすい徒長枝は冬季にせん除するため、防除の必要はない。しかし、激発した場合や、隔年結果樹、高接ぎした樹や苗木、幼木など、新梢を利用する樹では防除が必要である。新葉展開初期から2～3回、殺虫剤を散布する。

6) 果樹カメムシ類

令和7年7月16日発行の病虫害発生予報第4号では、向こう1か月の果樹カメムシ類の予想発生量は「並」となっている。果樹園への飛来状況は地域や園により異なるため、園地への飛来を早めに発見し、殺虫剤を散布する。夕刻から夜間に飛来する個体が多いので、夕刻に散布すると効果的である。合成ピレスロイド剤は比較的残効性が長く、効果が高いが、天敵類に及ぼす影響も大きく、カイガラムシ類やハダニ類の発生が助長されるので注意する。

※極早生温州等、収穫の早い品種については農薬の使用から収穫までの日数に注意をする。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の発行元 》 千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>